

# 自閉症スペクトラム障害児における 課題従事行動促進の手立てに関する事例研究

—課題の内容順序選択と課題量調整の導入による効果について—

○\*藤本 夏美

\*\*倉光 晃子

(\*筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

(\*\*福岡教育大学 特別支援教育講座)

KEY WORDS: 課題従事行動 課題の内容順序選択 課題量の調整

## I. 目的

本研究では、机上課題の従事に困難を示す自閉症スペクトラム障害児を対象に、従事が困難な課題の内容順序の選択機会の設定、課題量の調整、これらの条件を合わせた条件の各条件による課題従事行動促進の有効性を検討することを目的とした。

## II. 方法

- 1. 対象児**：知的障害の特別支援学校小学部に通う2年生の男児（7歳5か月）で、中度知的障害を伴う発達障害（自閉症傾向）と診断されていた。療育手帳はB判定、研究開始時に実施したKIDS乳幼児発達スケール（タイプT）の結果は、総合発達年齢3：9、S-M社会生活能力検査の結果は、社会生活指数(SQ)50、社会生活年齢(SA)3：9であった。
- 2. 提示課題**：アセスメント結果を参考にし、対象児の身近なものを白画用紙で作成したいろぬりの台紙をその色のクーピーで塗るといういろぬり課題（5試行）を設定した。
- 3. 標的行動と従属変数**：標的行動は、机上で指導者の指示に従って課題を遂行する課題従事行動とした。従属変数は、課題従事率とした。また、課題の完成度、逸脱率、プロンプトを要した課題従事率、自発課題従事率、気になる行動を伴った課題従事率を効果の参考指標として記録した。
- 4. 研究デザイン**：A（選択なし）条件、B（選択あり）条件、C（選択あり+量調整）条件、D（選択なし+量調整）条件の4つの条件をABCDABの順で実施した。
- 5. 指導手続き**

- 1) A（選択なし）条件**：課題の内容順序をメイントレーナー（以下：MT）が決定した。MTがいろぬりの台紙1枚とその色のクーピーを対象児に提示し開始を促した。対象児が自発的に塗った量をいろぬり課題の完成度とし、全体の80%以上を塗ることができていた場合を完成としてMTが「上手に塗れました。」という言語称賛と拍手を実施した。全体の80%以上を塗れなかった場合は未完成とし、MTが「ここを塗ってください。」という音声プロンプトと塗るべき箇所の指差し、身体ガイダンスを段階的に提示した。逸脱行動が生じた場合は、机叩きはそれが終了するまで待ち、それ以外の逸脱行動は段階的にプロンプトを行い課題を全て遂行させた。
- 2) B（選択あり）条件**：MTがいろぬりの台紙5枚を机に並べ、「どれからする？1つ取ってね。」と対象児に選択を促した。1試行が終了すると、また同じように残りのいろぬりの台紙を提示して選択させ、全試行が終了するまで繰り返した。その他の手続きはA条件と同様とした。
- 3) C（選択あり+量調整）条件**：いろぬりの台紙の大きさをB条件の課題の完成度が平均50%であったことから、A、B条件時の5割の大きさに調整した。その他の手続きはB条件と同様とした。
- 4) D（選択なし+量調整）条件**：いろぬりの台紙の大きさをA、B条件時の5割の大きさに調整した。その他の手続きはA条件と同様とした。

## III. 結果

結果は、以下のFig.1, 2に示した。

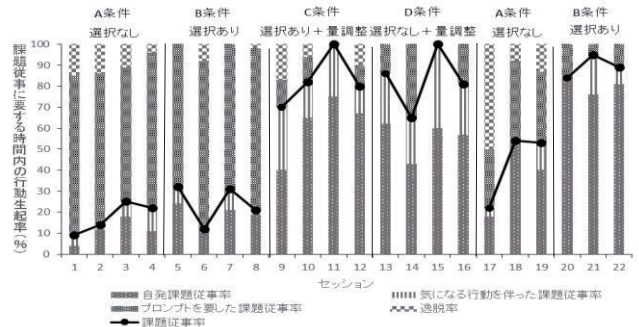


Fig.1 対象児のいろぬり課題の各条件における課題従事率と課題従事に要する時間内の自発課題従事率、気になる行動を伴った課題従事率、プロンプトを要した課題従事率、逸脱率

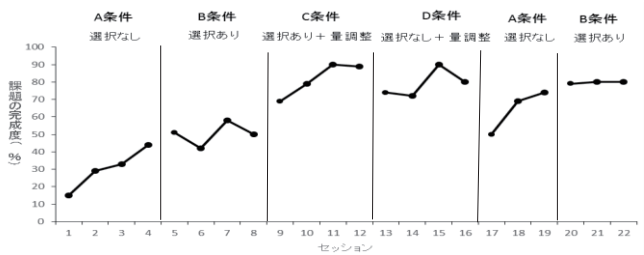


Fig.2 対象児のいろぬり課題の各条件における課題の完成度

## IV. 考察

本研究の結果から、課題の内容順序の選択機会の設定のみでは課題従事行動の促進に効果はみられなかったが、課題の内容順序の選択機会の設定に加えて課題量の調整、課題量の調整のみの条件で効果がみられ、これらの条件を経た後、課題量を戻しても課題の内容順序の選択機会の設定で課題従事行動促進の効果が生じたことが示唆された。

まず、1回目のB（選択あり）条件では、課題自体が対象児にとって嫌悪性が高く課題の内容順序の選択機を設定しても従事行動に影響を及ぼさなかったことが考えられる。

次に、課題量の調整による効果については、対象児に従事可能な課題量に調整したことで課題を完成させることができ、MTから言語称賛と拍手を受けるという強化随伴性が成立しやすくなったことが考えられる。

そして、課題の量調整導入後の内容順序の選択機会設定による効果については、課題量を元に戻しても2回目のB（選択あり）条件で上昇したことから、C（選択あり+量調整）条件で課題量調整に加えて内容順序の選択機会設定をして従事行動が強化されたことで、2回目の課題の内容順序の選択機会設定のみ条件で課題量調整と内容順序選択の対提示時のような従事行動促進の効力を喚起した可能性があり、課題の内容順序の選択機会設定の効果を助長させたと考えられる。

また、C（選択あり+量調整）、D（選択なし+量調整）、2回目のB（選択あり）条件で課題の完成度も上昇し、正確な課題遂行（取り組みの質の向上）の効果も示唆された。

以上のことから、課題の内容順序の選択機会の設定が活かされるような課題内刺激の操作の重要性が示唆された。

(FUJIMOTO Natsumi, KURAMITSU Akiko)